

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立浜松聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	41名

1. 使用状況

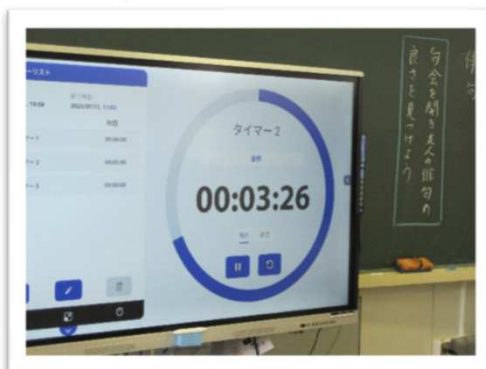
寄贈物品名	電子黒板（昇降スタンド付）
使用学年及び人数	中学部全学年（16人）
使用頻度	中学部：毎日
使用状況	<p><各教科の授業で活用></p> <p>① 資料の拡大表示 ・社会科の授業では、デジタル教科書を電子黒板に投影し、視覚的支援を行いながら授業を展開。 ・数学科や技術科、国語科、英語科等の各授業では、グラフや図形、プログラミングの方法・手順等を表示し、タッチペンでポイントや解説を書き込む等して授業を展開。</p> <p>② 電子黒板の機能の活用 ・タイマー機能の活用、校内ネットワークへの接続による資料の提示による視覚的支援。</p> <p>③ インターネット活用 ・インターネットで必要な情報を収集し、電子黒板に表示。対話と思考の手掛かりとする。</p> <p>④ 情報や思考の共有 ・1人1台タブレットを併用し、生徒の意見や考えを電子黒板に一覧として表示。授業を展開。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>① 電子黒板に投影しての授業展開では、グラフや図、写真、資料等を照らし合わせることで、生徒のよりよい理解に繋がっている。 数学科のグラフや図形の表示、技術科のプログラミング方法・手順の表示では、直接電子黒板にポイントや解き方、手順等を書き込むことができるため、生徒にとって視覚的にも分かりやすいように思う。また、英語では、生徒自身も直接英文を書き込むことで、全体での情報の共有を図ることができている。さらに、図形やグラフ等の資料を、瞬時に表示・切り替えができるため、時間の短縮となり、効率よい、効果的な指導に繋がられている。</p> <p>② 電子黒板機能を積極的に活用していく中で、効果的・効率的な使用方法について教員も生徒も理解することができてきている。</p> <p>③ 疑問点や詳細情報等について、電子黒板のインターネットを活用し、その場で調べ、その場で解決することができている。生徒の興味関心を高められるとともに、「知りたい」「調べたい」という意欲の向上、自分で問題解決をする力の向上に繋がっている。</p> <p>④ 1人1台タブレットと連携し、電子黒板に表示することで、視覚的に生徒の考えや思考、情報を確認することができ、生徒の考えや情報の共有に繋がられている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p><電子黒板機能の理解と効果的活用></p> <p>・昨年度に引き継ぎ、電子黒板を活用しての視覚的支援を行っている。タイマー機能やインターネット活用、校内ネットワークとの連携等、昨年よりも活用の幅が広がってきている。 1人1台タブレットとの連携を進めている。今後、1人1台タブレットとの連携・他のICT機器と併用した活用を進めたい。また、生徒たちの教育活動が充実したものとなるよう校内研修等を通して、活用の幅を広げていきたい。</p>
その他希望や所感など	

2. 活用の様子

＜各学習での活用事例＞
【防災学習 ～1人1台タブレットとの連携～】



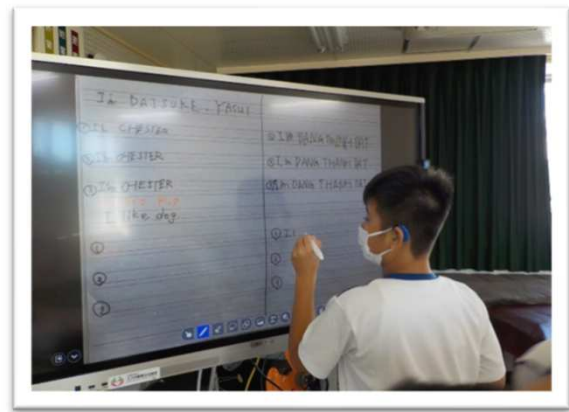
【国語科授業 ～タイマー機能の活用 詠った俳句の共有～】



【百周年記念式典に向けて】
～校内ネットワークとの連携～



【英語科授業】
～情報の共有 英文の電子黒板への記入～



①インターネット検索 ②タブレットによる「意見・考え方の共有」「情報共有」】

